

使いやすさはそのままに、 効率性を向上

～CBMS 会計から ZeeM 会計へ～

ZeeM 会計

1944 年の創業以来、一貫して医学領域専門の出版物を発行している株式会社医学書院。2008 年版にて第 50 巻を数える実践治療年鑑『今日の治療指針』は、日本の医療従事者必読の書として知られている。また『系統看護学講座』など看護学生向けの教科書も全国的に使用されており、医学・看護学系の学生、教員、研究者からの高い評価と信頼を得ている。

2001 年よりクレオの旧会計システム『CBMS 会計』を導入していた同社は、新会計システム『ZeeM 会計』へ移行を果たし、2008 年 7 月からの移動をスタートさせている。導入の経緯と、ZeeM 会計の使用感について、同社システム管理室課長の岡田正則氏と鈴木威左海氏、総務部経理課課長の横澤隆行氏と小瀧清和氏に話を伺った。

システムリプレースの背景

「本音を言いますと CBMS には不自由を感じていました。ですが、サポートの更新時期が 2008 年 3 月に迫っていたこともありまして、それなら基幹運動が可能となる ZeeM 会計に思い切って変えてみようかということになりました。」(岡田氏)

CBMS から ZeeM へのシステム移行となった今回のケースだが、その直接的な動機はサポート更新のタイミングにあったという。

「クレオさんの製品の使いやすさは折り紙つきでしたから、経理部門は ZeeM を推してくる。それならこの際判断は、現場に委ねるとして、でも一つの機会ではあるのだから他社製品も見てもらって、その上で決めようじゃないかということになったんです。」(岡田氏)

『ZeeM 会計』採用の決め手は “コミュニケーション”と“使いやすさ”

複数ベンダーの間でコンペティションが行われるも、医学書院総務部の強い信頼を得ていた『ZeeM 会計』は、CBMS に引き続いての採用を勝ち取るにいった。総務部経理課の横澤氏は、当時の胸中を次のように振り返る。

「CBMS も決して使いにくいものではありませんでした。というよりむしろ十分に使いやすいシステムで、私たち自身もかなり慣れ親しんでいたんです。他社に乗り換えるよりも、クレオさんの会計システムである ZeeM に期待したいという思いが強かったのは当然だったかもしれません。」(横澤氏)

また、横澤氏は、ベンダーとクライアントの間での“コミュニケーションの深さ”を、システム選定～移行のポイントとして挙げた。

「これまで培ってきた信頼関係というものが背後にはあるわけですが、クレオさんにはいるんことを言いたい、注文しやすいですね。こうした気軽にコミュニケーションできる環境がないとシステム移行はもちろん、その後の運用も難しくなります。コミュニケーションの深さが決め手ではないかと個人的には思っています。」(横澤氏)

医学書院は 2008 年 10 月にシステム移行後最初の決算を迎えている。移行に際しての思いと、ZeeM 会計の使用感について、同課の小瀧氏は次のように語った。

「同じクレオさんのシステムですから、基本的な操作の流れは変わらないと思っていましたので、その点については心配していませんでした。マニュアルを



株式会社医学書院は、医学系図書の出版社の最大手として医学関係の雑誌・書籍・辞典を発行、医学・看護学系の学生、教員、研究者から高い評価と信頼を得ている。2007 年に東京都文京区本郷の新社屋に移転した同社の従業員数は 227 名（2008 年 12 月現在）となる。

お問い合わせ

株式会社クレオマーケティング
ZeeM 事業部
営業部
TEL : 03-5769-3620
FAX : 03-5769-3621
info.zeem@creo.co.jp
https://www.zeem.jp

ZeeM 導入以前

- サポート更新期限に合わせて、基幹型会計システムへのリプレースを検討していた。
- 同一の会計データの二重入力といった手間が発生していた。
- 移行に際し、運用の現場となる経理部門への負荷を最小限にしたかった。

ZeeM 導入以後

- CBMS の使いやすさはそのままに、機能面はさらに充実。
- 基幹運動により、一次入力データをそのまま会計データとして利用可能に。
- 「データ移行」はクレオが担当で実施。移行負荷を軽減できた。

一方で、機能についてはどうか。

「例えば、CBMS だと各モジュールごとに独立していましたから、『債権債務管理』や『固定資産管理』といったモジュールを使用するたびにログオンして、別窓で切り替えて作業しなくてはなりませんでした。ZeeM 会計ではこれらのモジュールをタブで切り替えて使うことができます。これによって操作性が非常に向上したように思います。このほか、データを PDF 化できる機能も非常に便利だと感じています。決算資料などを作成する際には大変重宝しますね。」(小湯氏)

これらの改良点を小湯氏は「些細な点かもしれませんが、オペレーションからしてみれば非常に便利になった部分」であるとし、そのことがそのまま作業時間の短縮につながったと強調した。

経理部門以外にもメリットをもたらした ZeeM 会計の基幹連動

「業務効率が上がったことを感じるの、実は、経理部門だけではないんです」と述べるのは岡田氏。今回のリプレイスは、単独の会計システムとして稼働していた CBMS を、基幹連動型の『ZeeM 会計』に移行させるという重要な側面を持っていた。岡田氏は経理以外の他部門こそが、この基幹連動の恩恵を受けていることを指摘する。

つまり、従来の単独型会計システムでは基幹連動がとれなかったため、一度起票された伝票の内容を、別の担当者が原価管理システムに再入力するという工程が発生しており、同一データを二重入力する手間と転記ミスが懸念材料となっていた。今回の『ZeeM 会計』導入によって原価管理システム等、基幹連携が可能となり、経理で起票したデータ項目をそのまま他部門で活用できるようになった。データの共有によって手間とミスが発生しにくいフローが構築されたことに、横澤氏も「業務の正確性と効率性を向上させることができた。」と目を細める。

スムーズなリプレイスを助けたクレオによるデータ移行

システム移行のポイントを、現場経理部門の横澤氏は「コミュニケーションの深さ」に、小湯氏は「システムの使いやすさ」にあるとした今回。他方で、システム管理室の岡田氏は「データの移行」にあると述べる。

「これまでの経験から、過去から積み重ねてきたトランザクションデータを新システムに移すという作業

は、非常な手間となります。他社のシステムではなく ZeeM 会計へのアップグレードは新システムへのデータ移行まで面倒をみてもらうというのが大前提でした。」(岡田氏)

会計システムを運用する経理部門にとっては、過去データの参照は必ず発生する工程となる。データ移行がなされない場合、過去データを参照するたびに、毎度毎度システムを切り替えて運用することになりかねない。データを比較するにしても帳票を加工する必要が発生するなど、業務は複雑化するばかりだ。

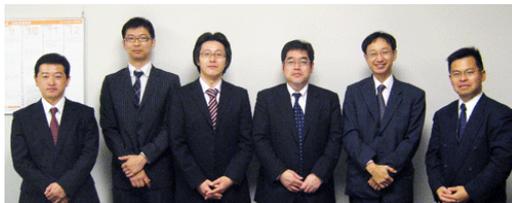
「今回は、そうした作業をクレオさんの主担当で対応してもらえたので、私どもとしては非常に楽なデータ移行だったと考えています。」(岡田氏)

ZeeM 会計導入後の展望

『ZeeM 会計』へのスムーズな移行・運用が実現している同社。総務部経理課の小湯氏と、システム管理室の鈴木氏に、今後の業務への展望について最後に話を聞いた。

「現状は経費や出張精算、伝票起票もまず紙に一回起こされたものが経理に回ってきて、それを経理が再入力しているという運用体制です。今後はこうした部分をデータ化していくことで、さらなる業務効率化や経費節減にもつながるのではないかと考えています。」(小湯氏)

「今回の移行の一つの焦点となりました“データの共有”は、システム管理上の今後のキーワードになるように思います。ある部門で入力したデータを別の部門では引用できないために、これを手入力するというのでは、正確性や効率性が担保されません。基本的なことかもしれませんが、情報システム部門としましてはこうしたデータ共有での負荷を下げ、改善していく方向付けができればと考えています。」(鈴木氏)



左から、株式会社医学書院 システム管理室課長の岡田正則氏、同システム管理室 鈴木威左海氏、同社総務部経理課 小湯清和氏、同総務部経理課課長の横澤隆行氏。株式会社クレオ プロダクト事業部 会計システム部 久保寛、同プロダクト事業部 カスタマーサービス部 佐々木武。2008年12月 株式会社医学書院にて撮影

お問い合わせ

株式会社クレオマーケティング

ZeeM 事業部

営業部

TEL : 03-5769-3620

FAX : 03-5769-3621

info.zeem@creo.co.jp

<https://www.zeem.jp>